

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	プロッサムジュニア 市川大野教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		令和8年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31 (回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		令和8年2月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内空間は、活動スペースが十分に確保され、子ども達にわかりやすく構造化された環境になっており、バリアフリー化や情報伝達等への配慮を行っている。	各室内は、余分なものを置いたりせずに、十分な広さを確保し、簡単な運動もできるように配慮している。また、イラストや文字等を利用し、分かりやすく構造化、情報の伝達を行っている。	療育に必要なもの以外でも、子どもたちや保護者様の意見を取り入れながら、室内空間だけでなく、設備も充実させていく。
2	支援計画には、支援ガイドラインの「提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から、個々の子どもに合わせ、分かりやすく支援に必要な項目を記載している。	支援計画では、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの視点に区分し、子どもたちの特性に合わせて計画を設定している。	支援の内容を、さらに具体的に記載し、実効性や達成可能な内容へ充実を図っていく。
3	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備している。	営業時間を問わず、面談、電話、メール等、複数の手段にて、迅速かつ適切に対応を行っている。	目先だけではなく、長期の視点も考慮しながら、リフレーミングの視点も欠落しないようにし、相談援助に応じていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や在籍園、在籍校との交流や、地域で他のこどもと活動する機会が少ない。	在籍園、在籍校との交流や、地域との交流は、相手先の都合もあり、簡単には進まない。	同じニーズのある他事業所への働きかけを行い、交流の機会を増やしていく。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が少ない。	事業所内で行うべき療育内容にフォーカスしており、ペアレント・トレーニングや研修会などを立案、検討する時間が少ない。	保護者様からのニーズも確認しながら、より必要な家族支援の内容を検討、企画していく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会を設けていない。	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催は、営業時間内で考えていくと、保護者様の都合が合わず、また、本来の趣旨である、子どもたちの療育の時間が削られてしまう。	保護者様からのニーズや都合も確認しながら、より必要な家族支援の内容を検討、企画していく。